

2026 年度東京海洋大学海洋生命科学部海洋政策文化学科 総合型選抜(専門学科・総合学科卒業生) 小論文② 解答例

2025 年 9 月 25 日

問1

鮮度の見分け方として広く用いられている方法には、官能的方法と化学的方法がある。

官能的方法では、「えらの色と匂い(新鮮な魚のえらは鮮紅色)」「目の美しさ(新鮮な魚の目は青く澄んでいる)」「魚体の硬さ(弾力があるものは新鮮である)」「表面の色とつや(うろこに光沢がありしっかりついているものは新鮮)」「腹部の硬さ(腹部が引き締まっているものは新鮮)」「魚の匂い(鮮度が低くなると悪臭を放つ)」があげられる。化学的方法には「魚の K 値を測定して鮮度を判定する方法」と「揮発性塩基窒素を測定する方法」がある。(249 文字)

問 2

(1) 磯には藻類が繁茂している場所があり、これらを踏むと非常に滑りやすく転倒する恐れがある。できるだけ両手に物をもたず、滑らないように慎重に歩く必要があるとともに、滑りにくいマリンシューズなどの靴を着用する。また、転倒した際のケガを軽減するため、帽子、長袖、長ズボン、手袋を着用する。

(2) 磯採集は干潮時が適しているが、海には干満の変化があるので、潮が満ちてきた際に岸まで戻ることができなくなる場合もある。潮位表を確認して採集当日の満潮および干潮の時間を確認するとともに、満潮時間の1から2時間前には、磯採集を終了して岸に戻るようにする。

(3) 波が採集場所の近くまで打ち寄せる磯では、波にさらわれたり、波に足を取られたりする危険がある。採集場所の波の状況をよく確認するとともに、波浪注意報などの気象情報をよく確認する。波浪が予測される場合は、採集場所を波打ち際から遠ざけたり、波の影響を受けにくい場所へ採集場所を変更したりするか、採集自体を取りやめることも検討する。

(4) 磯には人にとって危険な生物が生息する。ハオコゼやゴンズイなどの魚類、アンドンクラゲ、カツオノエボシなどのクラゲの仲間、そのほか、ヒョウモンダコ、ウミケムシ、ガンガゼなどが、磯に生息する毒を持つ生物として挙げられる。カツオノエボシとヒョウモンダコについては、重症化するおそれが高く、心肺蘇生や医療機関に搬送する必要がある場合もあるので、特に注意が必要である。さらに、毒をもつ生物のほか、岩に付着しているカキやフジツボで手足を切る場合や、ウツボは噛みついてくる場合もあるので、注意が必要となる。これらの生物については事前学習を十分にを行い、むやみに近づいたり触ったりしないようにすることや、もし発見した場合は、一緒に活動している仲間に知らせて、情報共有することも必要となる。(約 770 字)

問 3

一般に漁業者が収入を増加・安定させるためには、漁獲物の売り上げを上げると同時に、操業経費を抑えることが必要である。特に、漁獲量を増やすことができない場合には、薄利多売ができないので、漁獲物の売り上げ単価を上げることに加えて、操業経費を可能な限り下げることが必要である。

漁獲物の売上単価を上げるためには、その魚の浜値が高い時期に漁獲することや、活け締めや活魚輸送など、船上における漁獲物の取り扱いを工夫し鮮度を維持することにより、より高い市場価格で売する方法が考えられる。

操業コストを下げるためには、浜値が低い時期には操業を控える、燃油を浪費しない操業形態に転換する、漁船や設備を更新し効率化をはかるといった方法がある。

漁業操業に限らない視点で考えると、水揚げ後に直接取引などを通じて通常の市場価格より高く漁獲物を販売する、水揚げされた漁獲物を自ら加工し付加価値を付ける、あるいは漁獲物を販売する産地のレストランや直売所を漁業者が共同経営することも、漁業者の収入の増加・安定につながる。

国や地方自治体は、このような漁業者の取組について、情報提供、技術支援、財政支援など様々な方法で支援することが求められる。(501 文字)

問 4

模範回答：集荷機能、取引機能、決済機能、分荷および出荷機能（『水産海洋基礎』84 ページ）

これ以外の回答として、集分荷機能、価格形成機能、代金決済機能、情報受発信機能などでもよい。

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sijyo/info/attach/pdf/index-206.pdf>

農林水産省『令和 6 年度 卸売市場データ集』2-3 ページ